

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		都市計画道路整備事業						予算事業名		街路管理事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	都市計画法			
				08	03	03	1101	政策経費					
総合計画体系		2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						事業の区分		主要事業			
		2-1計画的で魅力あるまちづくり(都市計画)											
		①計画的な市街地の形成						担当課係等		都市計画課 計画係			
		2都市計画道路の再検討											
事業期間		継続(平成29年度～平成33年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
都市計画道路3・4・18号線(鹿窪・砂窪線)の整備 ※旧鹿窪・根本原線								昭和32年に都市計画決定告示を受ける。					
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】					
都市計画道路3・4・18号線(鹿窪・砂窪線)の整備に向けて、整備計画の作成、用地の先行取得等を行う。								市民					
【事業をとりまく環境の変化】								平成23年度から長期未着手となっていた都市計画道路の再検討を実施し、平成29年5月に当該路線を含めた変更に関する都市計画決定告示を受けた。					
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】					
・結城1303-5,-6先行取得 ・結城5974-4先行取得 ・県協議				・県協議				・県協議					

■事業費

		H29年度	H30年度			
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	10,100			
	その他	0	0			
	一般財源	0	253			
歳入計(千円)		0	10,353			
歳 出 内 訳	節(番号+名称)		金額(千円)	金額(千円)		
	13 委託料		0	196		
	17 公有財産購入費		0	10,157		
歳出計(千円)(A)		0	10,353			
伸び率(%)			皆増			
備 考	総合計画 71 ページ 予算書 142 ページ					

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	先行取得面積	㎡	目標	0.00	221.25	511.05
	当該路線に係る用地の先行取得面積		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	整備計画の作成	式	目標	1.00	1.00	1.00
	3・4・18号線（鹿窪・砂窪線）整備に向けた計画の作成		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	都市計画道路の見直しが完了し、また、市庁舎移転なども控えていることから、南部地域と北部地域を結ぶ路線の整備は重要であると考えられる。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	本来であれば県主体で進めていく事業であるが、市の負担割合等も当然出てくると思われる。
	手段の妥当性	A 妥当である	県と協議を重ねながら、事業化へ向けて取り組んでいく。また、用地については、買取申し出があった場合に事業化を見据えた形で購入するかを判断している。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	事業化がされていない街路用地の先行取得については、その後の管理等を考慮しても効率的ではないが、計画路線上の用地に関して、買取申し出がなされた場合に、今後の用地買収に係る作業を考慮すると、先行取得することも効率的であると考えられる。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市域全体の道路ネットワークの構築に関する事業であるため、偏りはないと思われる。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	まだ先を見据えた事業であり、成果向上という考えはまだできない。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	県協議等は行っており、当該路線の一部に関する概算設計などは予算化されているようだが、事業化に向けて進んでいるかといわれると、何とも言えない状況である。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
現状できることは実施しているが、今後予想される問題・課題等は多々あると思われる。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
事業化に向けた調整は今後、より必要になってくると思われる。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 財政状況を考慮し、関係機関・地権者等と調整を図りながら推進する。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。